

## 第41回宇宙開発委員会（定例会議）

### 議 事 次 第

1. 日 時           平成8年12月11日（水）  
                  14:00～14:20
2. 場 所           委員会会議室
3. 議 題           (1) 前回議事要旨の確認について  
                  (2) 第3回日・ESA行政官会合アドホックワーキンググループの結果について
4. 資 料           委41-1 第40回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）  
                  委41-2 第3回日・ESA行政官会合アドホックワーキンググループの結果について

# 委 4 1 - 1

## 第 4 0 回宇宙開発委員会（定例会議）

### 議事要旨（案）

1. 日時           平成 8 年 1 2 月 4 日（水）  
                  1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 1 0
2. 場所           委員会会議室
3. 議題           (1) 前回議事要旨の確認について  
                  (2) 小型自動着陸実験（ALFLEX）に係る開発結果の評価に  
                      ついて  
                  (3) アジア太平洋パイロットプロジェクトの推進に関するミッシ  
                      ョンの派遣結果について
4. 資料           委 4 0 - 1   第 3 9 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）  
                  委 4 0 - 2   小型自動着陸実験（ALFLEX）に係る開発結果の  
                      評価について（報告）（案）  
                  委 4 0 - 3   アジア太平洋パイロットプロジェクトの推進に関する  
                      ミッションの派遣結果について

### 5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

野 村 民 也

宇宙開発委員会委員

山 口 開 生

〃

末 松 安 晴

〃

長 柄 喜 一 郎

### 関係省庁

郵政大臣官房技術総括審議官

甕       昭 男（代理）

通商産業省機械情報産業局次長

河 野 博 文（〃）

事務局

科学技術庁長官官房審議官

大 熊 健 司 他

## 6. 議事

### (1) 議事要旨の確認について

第39回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委40-1）が確認された。

### (2) 小型自動着陸実験（ALFLEX）に係る開発結果の評価について

事務局より、資料委40-2に基づき、小型自動着陸実験（ALFLEX）に係る開発結果の評価に関する技術評価部会の報告書案について説明が行われた。

これに関し、委員より、今後のHOPE-X開発への課題等について質問があったのち、同案が了承された。

### (3) アジア太平洋パイロットプロジェクトの推進に関するミッションの派遣結果について

科学技術庁研究開発局宇宙利用課 阿部係長より、資料委40-3に基づき、11月17日～30日に、アジア太平洋地域（フィリピン、オーストラリア、ベトナム、インドネシア）におけるリモートセンシングの分野での協力の具体化に係る協議を行うために実施した、アジア太平洋パイロットプロジェクトの推進に関するミッション派遣の結果について報告があった。

これに関し、委員より、フィリピン、ベトナム、インドネシアとの協力状況、訪問各国の共同研究のための予算、日本国内での協力体制等について質問があり、国際的な協調をとりつつ継続的な援助を行うべきとの発言があった。

以上

## 第 3 回日 / E S A 行政官会議アドホック会合の結果について

平成 8 年 1 2 月 1 1 日  
調 査 国 際 室

## 1. 会合の趣旨

本会合は、昨年 6 月に東京にて開催された第 2 0 回日 / E S A 行政官会議において、従来の情報交換を主体とした協力活動を活性化させ、新たな協力についての意見交換と提言を行うことを目的として設置されたもの。

## 2. 日 程

1 2 月 5 日 (木)	午前	全体会合
	午後	分科会
1 2 月 6 日 (金)	午前	分科会
	午後	分科会及び全体会合

## 3. 場 所

宇宙開発事業団筑波宇宙センター

## 4. 出席者

(日本側) 大熊審議官、中西調査国際室長 他

文部省、通産省、郵政省、宇宙開発事業団等から参加

(E S A 側) ドーダン戦略・計画・国際政策局長、アシュフォード通信衛星局  
部長 他

## 5. 会合の結果概要

○宇宙ステーション、宇宙輸送、衛星応用技術、地球観測、月・惑星探査及びアルテミスの各分科会からの検討結果を踏まえて、アドホック会合としての共同声明を行うとともに、結果を次回日 / E S A 行政官会合 (来年 6 月頃予定) に報告することとなった。

○会合結果についての共同声明は別添のとおり。

○結果についての主なポイント

## (1) 宇宙ステーション

- ・ E S A の冷凍庫と N A S D A の国際標準ペイロードラックの交換に関する原則的な取決めが N A S D A / E S A 間において署名され、双方とも実施計画の作成を開始。
- ・ アルテミスと日本のデータ中継衛星の利用を通じて、コロンバス軌道上実験室 (C O F) と宇宙ステーション取付型実験モジュール (J E M) のデータ交換能力の強化のための技術面及び運用面での協力を模索する。
- ・ 軌道間輸送機の分野において共通技術アプローチ及びインタフェースを調整するための定期技術交換会合を設立する。

(2) 宇宙輸送

- ・HYFLEXの飛行データの解析、HOPE-Xの飛行計測データの収集、ESAの将来の欧州宇宙機研究計画(FESTIP)及び、ESAの大気再突入実験機の飛行における協力の可能性を模索する。
- ・OREXとASTROSPAS(飛行位置確認実験)時のGPSデータの解析を行う。

(3) 衛星応用技術

- ・日欧グローバル・マルチメディア・アクセス網(GAMMA)の技術コンセプトに合意した。
- ・高速衛星通信技術の分野では、ギガビット衛星の分野で協力することに合意した。
- ・測位衛星、ミッション実証衛星、災害管理の分野については、情報交換を継続する。

(4) 地球観測

- ・ESAのアース・エクスプローラーによる「地球放射」の候補ミッション及びNASDAのこれに対応する地球放射の候補ミッションにおける協力及びセンサーの相互搭載に関し、共同のフェーズA調査活動のための可能な活動計画を作成することに合意した。
- ・地球観測データへの相互アクセス等に関する協力の検討。

(5) 月・惑星探査

- ・人材交流及び情報交換を促進する。

(6) アルテミス衛星に関する協力

- ・ESAのアルテミス衛星をNASDAのH-IIAロケットで打上げ、日本の衛星ミッションにアルテミスを利用する取決めは合意に達し、両者で承認のための検討を行っている。

## 日/ESA行政官会議アドホック会合結論に関する共同声明(仮訳)

## “21世紀の新たなパートナーシップに向けて”

平成8年12月5日から6日にかけて、欧州宇宙機関(ESA)と日本の宇宙開発政策関係者は、筑波研究学園都市に会し、アドホック会合の成果のレビューを実施した。この日/ESA行政官会議アドホック会合は、第20回日/ESA行政官会議で設置された。アドホック会合は、1996年中に、更なる協力のための共同勧告の採択を通じ、両者の協力の水準を向上させるという双方の意志を反映させることを目的としている。

この機会に、日/ESAは、共同プロジェクトを実施し宇宙関連データを共有するという双方の関心を満たし、宇宙活動における国際協力を発展させるため、宇宙活動での両者の協力をより強固なものにしようとする双方の意志を確認した。

日/ESA協力は既に目に見えるほどより強固なものとなっている。主要なプロジェクトを実施するための協力協定は既に合意され、正式な承認の過程にあるほか、その他の有望な協力は、ほぼ全ての宇宙活動分野での協力をはじめとして、中長期的観点から検討されてきている。

今後の日/ESA間の協力については、以下のとおり位置付ける。

## 1. 合意の過程にある協力協定

宇宙開発事業団(NASDA)のH-IIAロケット初号機でESAのARTEMIS衛星を打上げ、日本の衛星ミッションにARTEMISを利用する取極は合意に達し、現在両者で承認のための検討が行われている。本取極の署名は1997年4月に予定されている。それまでの間、取極の各項目は、ESAの長官とNASDAの理事長により平成8年9月30日に署名された暫定取極により、有効なものとなっている。

宇宙ステーション利用の分野においては、ESAの零下80度冷凍庫とNASDAの標

準ペイロードラックの交換に関する原則的な取極がNASDAとESA間で署名された。双方とも実施計画の作成を開始し、1997年中を目途としてNASDA/ESAの取決を結ぶこととしている。

日/欧グローバル・マルチメディア・アクセス網(GAMMA)の技術コンセプトは合意された。このプロジェクトは1997年4月から欧州と日本の間回線を開設することを目的としており、これにより遠隔医療、遠隔教育、ビデオ会議、地球観測データへのアクセスなど、衛星を経由した新規のサービスを開始することができる。

## 2. 中長期的に有望な協力分野

軌道間輸送機分野においては、日/ESAは選択された課題について情報交換し、協力項目を明らかにし、共通技術アプローチ及びインタフェースを調整するための定期技術交換会合を設立する。日/ESAは、既に合意されているとおり、軌道間輸送機の設計審査に相互参加し、計画の進捗に関する情報交換を行う。

国際宇宙ステーション運用分野においては、ARTEMISと日本のデータ中継衛星の利用を通じて、コロンバス軌道上実験室(COF)と日本の宇宙ステーション取付型実験モジュール(JEM)のデータ交換能力の強化のための技術面及び運用面での協力を模索している。

地球観測分野では、協力のための計画を強化すること、及び、特にESAのアース・エクスプローラーによる「地球放射」の候補ミッション、及びNASDAのこれに対応する地球放射の候補ミッションにおける協力及びセンサーの相互搭載に関し、両者が示した関心に基づき、共同のフェーズA調査活動のための可能と考えられる活動計画を作成することが、ESAと日本間で合意された。既存の合意に加えて、両者は、地球観測データへの相互アクセス、取得及び配布における更なる協力について、検討することに合意した。

高速衛星通信技術分野では、ESAと日本は、ギガビット衛星分野で協力することに合意した。ギガビット衛星の開発は連続する4つの段階、つまりシステムコンセプトの研究(第1段階)、要素技術の研究と開発(第2段階)、衛星の開発(第3段階)及び衛星を用いた実験(第4段階)により実施されることが合意された。ESAと日本は、

既に、第1段階で協力しており、2002年頃、宇宙空間での検証を目標に、1997年3月までに衛星の共通コンセプトを準備する計画である。

宇宙輸送分野では、HYFLEXの飛行データの解析、HOPE-Xの飛行を利用した飛行計測データの収集、ESAの将来の欧州宇宙機研究計画(FESTIP)、及びESAの大気再突入実験機の飛行における協力の可能性の模索を継続することが、合意された。ESAと日本は、軌道再突入実験機(OREX)とASTROSPASミッション(飛行位置確認実験)時のGPSデータ(飛行位置情報)の解析を行うことに合意し、また、人材交流の可能性について合意した。

測位衛星、ミッション実証衛星、災害管理の分野については、日/ESAは情報交換を継続し、適切な協力形態を模索することに合意した。

月・惑星探査の分野では、月衛星及び他の適切なミッションに係わるESAと日本との協力のために、人材交流と情報交換を促進することが合意された。

これらの活動を実施するに当たり、以下のために、日/ESA間の調整が強化され多様化される：

- 上記活動のモニター、修正、及び必要に応じた、新たな協力協定への合意；
- 世界の宇宙活動の進展と、両者の計画に対するそれらの影響に関する意見交換；
- ESAと日本との間の新たな協力の促進。

ESAと日本は、1997年より、これらの強化された日・ESA間の会合のための適切な仕組みを設立する。